

23 回目の青年対策交流集会は豊橋シーパレスで開催され、全国から 61 名の青年部が集まった。

今回の座学は、中執の鈴木委員長、そして真島元委員長により全港湾の歴史を学習した。

語り継がれてきた話から、実際の労働運動の体験談を話して頂き、改めて全港湾の活動の重要性、日常との密着性を再認識した。

その後の分散会では石炭問題、原発問題、米軍基地問題といった各地方の様々な問題に悩みを抱えた仲間たちは、質疑応答の時間や交流の場を使い、改善の糸口を探っていく。その大きな問題に立ち向かう組合員の姿勢には身の引き締まるような感銘を受けた。

分散会で議論された内容の発表では、各グループがテーマに対して多角度からアプローチし、中でも東北支部がメインとなっている原発問題では、汚染区域、汚染された土や水、差別による二次的被害をはじめ、政府の行き届かない支援問題は今も尚福島県民を苦しめる根深い問題である。

決して過ぎ去った災害ではなく現在も続くこの課題は、全国各所に広がる原発の危険性を再確認し、福島連帯キャラバンの重要性を皆で共有出来た。

この大会を通じて、トップダウンではなくボトムアップ、中央からではなく各地方からの押し上げにより我々の生活と権利を確立する、その為には一層団結を深めていきたいと感じた。

全港湾関西地本神戸支部
吉村 知